

平成 26 年度
第 5 期中原区区民会議 第 1 回運営部会

日時 平成26年8月21日（木）9：30～

場所 中原区役所 5階 505会議室

第5期中原区区民会議 第1回運営部会摘録

- 1 **開催日時**：平成26年8月21日（木）午前9：30～11：35
- 2 **場 所**：中原区役所5階505会議室
- 3 **出席者**：板倉部会長、橋本副部会長、反町委員、中森委員、成田委員、仁上委員、萩原委員【委員7名】
（事務局）小野副区長、今井企画課長、
江口係長、倉見係長、大崎職員、野並職員、西山職員【企画課】
岩下さん【コンサルタント（㈱カイト）1名】

4 議題等

- ・ 中原区区民会議運営部会要領について
- ・ 正副部会長の互選
- ・ 会議録確認委員の選任
- ・ 議題 （1）第5期区民会議の審議テーマについて （2）第2回区民会議について

5 傍聴者 なし

6 会議内容

- ・ 中原区区民会議運営部会要領について

事務局から、別添3「中原区区民会議運営部会要領」に基づき、別添3に基づき、要領について説明。了承される。

- ・ 正副部会長の互選

全会一致により、部会長に板倉委員、副部会長に橋本委員を選任した。

○板倉部会長：今日は暑いところ、お集まりいただきありがとうございます。運営部会は7回にわたる長丁場が予定されています。皆さんから忌憚りの無い御意見をいただきながらまとめていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○橋本副部会長：板倉部会長のお手伝いということで力になっていきたい。運営部会は少人数ですが、その分限られた時間の中で、より活発な御意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

- ・ 会議録確認委員の選任

会議録確認委員の選任について、第1回運営部会会議録確認委員は反町委員を選任。

- ・ 第5期区民会議の審議テーマについて（進行：岩下（コンサルタント（㈱カイト））

資料2に基づき、審議の到達目標（一つ目の審議テーマの決定）、審議の進め方（審議テーマを一つずつ順番に、集中的に審議）、審議テーマ選出に際しての5つのポイント等について確認。

資料1-2に基づき、準備会議及び第1回本会議で委員から出された審議テーマに関する意見内容と傾向を確認。

【意見交換】

板倉部会長 第3期、4期は、防災、子育て、情報発信をテーマに審議してきた。テーマ数を3つにすると、どうしても3つ目のテーマがなおざりになり、引継ぎ事項として残ってしまうと感じた。

小杉地区が近年ものすごく変わってきている中、川崎市でも、「スマートコミュニティ」という構想を打ち出している。地域のコミュニティを審議テーマとして打ち出してはどうか。世代交流や、言い方として好きではないが「新旧住民」の交流などを取り込んで、良い案ができないかと思う。

防災についても、今朝の広島での土砂災害のニュースなども聞いて、改めて気になっている。

その他では、最近の子どものいじめも気になる。これまで子育てというと、就学前の小さな子どもたちが中心になってきたと思うが、そろそろもう少し大きな子どもたち、例えば、小学校高学年から中学生などに着目しても良い。そうすると新しい視点から子育てを考えられる。夏休みの子どもの居場所なども課題と感じている。

反町委員 私は第3期から委員を務めてきて、これまで子育て関連で様々な検討、取組を進めてきたが、まだまだニーズがあり、継続してやっていかなければならないと感じている。ただやはり過去と同じようになってしまう面もあり、新しさという点で薄さも感じる。

もう一つの分野としては、地域コミュニティがある。地域コミュニティを新しくつくり、そこに参加していただくための支援をしていく。これは中原区が当分の間、力を入れて取り組まなくてはならないテーマだと感じている。今期取り組んだとしても、今期だけで終わる取組ではないだろう。地域コミュニティを創造していく上ではいろいろな企画が必要となると思うが、これの舞台を、例えば地元の商店街で行い、その商店街や地域の伝統文化などの魅力発信につなげていきたい。更には、例えばその内容に子育て支援も入れていく。地域コミュニティは分野として面白いと感じている。

中森委員 私は委員2期目として、私は外国籍なので、外国人の視点からの課題が常に気になっている。例えば防災。外国籍の方々は町会などにあまり参加していない。参加しづらい、どうやって参加したらいいのかわからないということがある。外国人の社会参加が進んでいない。地域をもっとオープンにして参加しやすいまちづくりを進めていく。それができれば、地域コミュニティに外国人も関わってくると思う。商店街を利用した何かなどもあり、そこに関わることができると思うのではないかと。

事務局（コンサルタント）おたずねしたいが、中原区の外国人はどこ国籍の方が多いか、どの地区に外国人が多いとか、そういった情報はあるのか。

中森委員 中原区についてはわからないが、川崎市全体では中国、韓国・朝鮮の方々が最も多く、次がインドかフィリピンで、最近増えてきている。ブラジルは少し前まで

は3番目だったのが、現在はそれらの国に次ぐ5番目になっている。

事務局（コンサルタント） そういった方々が集まっているような場所や活動というのは地域にあるのか。

中森委員 あると思う。ブラジルで言えば、集まる場所というか、よく行くレストランがあったりする。団体も一つあったが、最近はあまり頻繁に集まっていない。

外国人の中には力をもっている方もいるので、例えば災害で地域に被害があった場合には、支援を提供する側にもなれる。外国人市民にも助けを求められるような関係をつくっておく。例えば、高齢者の災害時の避難支援を、頼れる外国人にお願いできるような形になれば、外国人の方も「地域のために役立っている」と実感できるようになり、地域活動に参加する人も増えると思う。参加したいけれども一歩踏み出せない方が結構いるので、もっと呼びかけができると思う。外国人と仲良くしていく環境をつくりたい。

事務局（コンサルタント） 防災に限らず、地域の様々な場で外国人に参加してもらおうというのは、様々な課題の解決の一つの鍵になりそうである。

板倉委員 第3期、4期でもそうした話題は出たが、具体的な検討にはいたらなかった。

成田委員 私も今期で2期目になるが、資料で第1期からのテーマの変遷を見ていて、やはり子育てにしても、防災にしても中原区の急激な人口増というのが背景にある。ただ、古くから住んでいる方の捉え方と、新しく移り住んできた方の捉え方の間には、同じ人口増に対しても、感じていることのズレがあるのではないか。

例えば「住みやすさ」で考えたときも、重視するのが利便性なのか、近隣住民との人間関係なのか価値観が異なり、そのことからお店の選び方一つでも変わってくる。どんどん新しいテナント形式のビルができると、買物には便利だが、テナントというのはいつ交代するかわからない面があり、子育ての視点から見ると、子どもを安心して買い物に行かせて、お店の人とも信頼関係が成り立つというような環境は育ちにくいのではないかと思う。そうすると地域に従来からある商店街も子どもたちにとっては大切。私も「新旧住民」という言い方は好きではないが、異なる背景をもつ区民が、どこまでお互いを理解し合えるかというところを考えていきたい。

子育てに関しては、地域課題対応事業で乳幼児から小中学生を対象に取り組みされていることも非常に多い。知り合いが川崎市に移住してきたときに、区の情報ホームページなどを参考にしたそうだ。また、中原区こども支援室に実際に連絡したところ、保育園や子育て支援などの身近な情報をその場で提供してくれて、非常に情報がしっかりしていたという話を聞いている。これからはさらに、生活が始まってから先、小学生や中学生の親の方々を踏まえて地域を考えてはどうか。例えば、川崎フロンターレのように、新旧を問わずにみんなで応援できるような地域のシンボルがあると良いと思う。地域の中核となるような企業や商店などを改めて見直して、そこに焦点をあてたイベントなどを起こしてもよいかと感じている。

仁上委員 過去の区民会議のテーマの一覧を見せていただいて、私自身がなるほどな、成果があったんだと感じるのは「放置自転車対策」。第2期で取り上げられている。私も自転車を生活の中で使っていて、過去には一時預かり所にもっていかれたり、

警告シールを貼られたりということが何度もあった。私は元住吉の周辺に住んでいるが、最近ではきちんと駐輪場ができ、街なかの放置自転車が非常に少なくなった。

子育てというのはテーマが大きいし、資料にもあるように様々な取組が既に進められている。「では区民会議はどこに入り込んでいけばいいのかな」ということがあるのではないと思う。そこで、私は、自己紹介の時にも申し上げたが、ずばり「ごみ問題」を取り上げたら面白いのではないかなと思う。

例えばごみの排出マナー。地域によって本当に差がある。ごみ集積所がきれいなところもあれば、だらしのないところもある。突き詰めていくと地域のコミュニティの問題にもつながってくる。私の主観だが、隣近所ですっかりと当番制ができていような所のごみ集積場は大体きれいになっている。一方、住民の入れ替わりが激しいようなアパートなどではどうも汚い。不動産屋さんから、入居の際にごみ出しのルールなどの説明を受けたことがない、そうした資料を見たことがほとんどないケースもあるようだ。収集日に関係なく出して、放置されていたりする。このあたりを発信していく。町内会の減量指導員とタイアップなどして展開すれば少しずつ広まっていくのではないか。何か「こうした成果があった」といえるような形にしたい。放置自転車については、本当に減り、商店街なども通りやすくなったと感じている。ごみ問題はこれまで本格的に取り上げたこともないようなので、面白いのではないかなと思う。いろいろな角度、視点から取り組める課題でもあると思う。

萩原委員 地域コミュニティの問題は中原区の特徴かと思うが、今までずっとやってきた課題であり、様々なNPOさんも取り組んでいるので、今さらイベントやコミュニティ講座をやっても、それが何なのかということになりかねない。一緒に取り組むテーマを決めて、そこに商店街、子どもたち、町会などいろいろな主体と一緒に取り組むという形が、成果が出やすいのではないか。放置自転車の問題については、実は「自転車と共生するまちづくり委員会」が区民会議よりも前から取り組んでこられたが、区民会議で取り上げたことによって、より公になり、区全体の力を得て課題解決が進んだということなのではないかと思う。区民会議はそうしたきっかけづくりの力もあり、そこはもっと活かしていくべきではないかと思う。

私はごみ問題については、排出マナーというよりも「リサイクル」に関心がある。いろいろな資源のリサイクルがあるが、お店や個人単位ではなく地域全体で取り組んでいってはどうか。ポツンと1件だけ取り組みたいところがあっても、リサイクルはなかなか進まないし、お金にもならない。中原区全体で取りくんで、こういうふうになる可能性があるというようなビジョンを広げ、しくみをつくっていけないか。それがコミュニティのきっかけにもなりえるし、顔が見える関係にもつながる新しいチャレンジではないかと思う。

子どもがものすごく大事というのはもちろんのこと、子どもの親を教育するぐらいでないといけないと思う。学校や子ども会などとも連携して、講座みたいなことをやりながら、みんなで「このまちでこれをやりたいね」がつかれると良いと思う。これまでの審議テーマの継続も大事だが、ある程度課題を絞り込み、そこに各種団体や企業、個人を取り込んでいくことが良いと思う。

事務局（コンサルタント） 中原区の地域コミュニティで、人口増などもあって区民の様々なことに対する認識のズレがでてきている。区民の相互理解を進め、もっと互いの顔が見える関係を進めなければならないというのは、共通の問題意識と言えそう。

ただ、共通の問題意識をもやっとしたままメインテーマにしてしまうと、審議ももやっとしたままになってしまう。ごみ問題や防災などわかりやすい課題を設定し、そこに新しい視点や関係者を取り込んでいくという方向性は確かに良いかもしれない。

橋本委員 私は生活弱者や、高齢者でひきこもりがちの方などの課題に対し、世代交流の場が身近な地域でできて、そこに出やすくなるような雰囲気ができるのと良いのかなと感じている。商店街は今、空き店舗が結構あるので、それを地域みんなで利用させてもらって、商店街だけでなく、自治会の協力・連携を受けたりしながら、場の確保をすることによって、子育て世代や高齢者が一緒になって交流が図れるのではないかと思う。

萩原委員 ただ空き店舗でコミュニティカフェをやるというようなことではなく、何か一緒に参加でき、取り組める形にしていくと良いと思う。空き店舗活用は、本来はそこで家賃も人件費も払って成り立つようなものが理想。ただ空いているから無料で借りて、ボランティアを使ってというような形では、確かに場にはなるかもしれませんが、長続きしない。集まった人が一緒にやる何かをしたい。区民会議として何か新しい視点が盛り込めないか。区民みんなと一緒にまちをきれいにしようというような動きになれば良いのではないか。例えば二ヶ領用水をみんなで掃除しようというような…、ごみ問題もただマナーで捉えるのではなく、この資源をこれだけ集めればお宝にもなるというような、楽しい視点を導入できないか。子どもたちも楽しめる形にしたり、地域に花が増えたりといった形につなげることができれば素敵だなと思う。

事務局（コンサルタント） 川崎市では年に一度、多摩川の清掃活動を一齐に行っている。また、中原区内だったか、地域で子どもたちと落書き消しに取り組んでいるような活動もあったかと思う。

中森委員 フロンターレもサポーターと一緒に多摩川清掃の活動に参加している。子ども会が月に一回、屋外でごみ拾いの清掃活動をしている例もある。

事務局 自転車対策は、駐輪場の整備もある程度進み、中原区内でも朝晩の通勤に係る違法駐輪は少なくなっているのは事実。しかし、買物等の際の短時間の不法駐輪対策が新たな課題になっている。商店街と行政が連携しながら対策を考えていかなければならないと感じている。商店街の空き店舗などを活用して地域を活性化するという事業にも、行政では取り組んでいる。例えば空き店舗を活用した料理教室、にぎわい物産展、商店街のイメージアップで魅力発信する事業など、世代間や新旧住民の交流も目標にしながら展開している。

板倉部会長 放置自転車については、通称「自共生（じきょうせい）」という「自転車と共生するまちづくり委員会」が10年以上検討、取組を続けている。しかし、現在は人も少なく、買物時の短期駐輪については取組にいたっていないという実情がある。

成田委員 朝の通勤時間帯、働く世代の方が地域に増えている中、自転車に取り付けた幼児座席に子どもを乗せて、ものすごい勢いで街中を自転車で走られている風景をよく見かける。保育園等周辺の駐輪なども含めて、危険だと思う。

事務局（コンサルト） 自転車による交通事故は近年深刻な事例も増え、社会的な問題となっている。TVで保険のCMが流れるようになっている。

中森委員 小学校では自転車の交通マナーや安全講座を開催している。低学年が対象だったかと思う。対象をもうちょっと広くして、保護者も参加できるようにしたり、幼稚園や保育園でも開催したりできると良いと思う。中学生も小学生の時に学んでいると思うが、自転車であちこち出かける世代でもあるので、振り返りや上級講座のようなことを展開しても良いと思う。

事務局 小学校では自転車の交通安全教室を開催している。区役所でもスクアードストレートという教室を開いていて、その中でスタントマンが自転車で走ってきて、ぶつかって飛んでいくというような、事故の怖さを実際に見せることによって体験、印象づけさせるような取組を進めている。区役所と小中学校等との取組がもっとうまく連携できるようになると良いのかもしれない。

反町委員 自転車の交通安全教室は、むしろ親世代が必要なのかと思う。子どもを乗せて猛スピードで走っているなど本当にあぶないと思う。確か昨年度、幸区で悲しい事故も発生した。子育てで忙しくされているお母さんは、本当に毎日が必死で、新しい交通安全情報を取り入れたりする機会が無い方もいると思う。そうした方になんとか働きかけられないか。内容がどんなに良くても、伝えたい方に聞いていただかなければ、参加していただかなければ、意味がない。子育て中の親が集まるイベントの中で展開したり、映像や冊子で何とかPRしたりして、「もしかして私はこんな危ないことをしていたのか」とはっとしてもらう。ついでに、先ほどの買物中の短期駐輪の問題なども話してもらえれば、中原区の自転車問題に対するトータルな効果があるのではないか。

事務局 月1回、区長を始めとする管理職が朝7時半に最寄りの駅前や駐輪場でティッシュを配って、ノボリを持って啓発活動を行っているが、おっしゃられるようになかなか皆さん余裕がなく、「邪魔だよっ」と言われてしまうような場面もある。もうちょっと魅力のある啓蒙の仕方を考えていかなければならないのかもしれない。

事務局（コンサルト） 地域コミュニティは最終到達点として意識していくテーマ。審議テーマとしては、もう少し絞り込んだ具体的な形、例えば自転車問題やごみ問題などをメインに据え、外国人や商店街など様々な主体が参加し、関わっていけるような解決策を探ることで、世代交流や新旧住民の交流を進め、区民全体で関わっていく道を探る。このあたりは共通認識ということで良いか。

萩原委員 そんなイメージが共有できてきたようにも思うが、では何を中心テーマとするかというとまだ、絞り込めていない。

成田委員 ごみ問題は取り組みやすいのかなと思う。子育ては中・高学年という話もだが、その世代になると実際の活動を手伝ってもらえるような世代。子どもたちが自分の地域のごみ排出のルールについて学んだり、考えたりする。イベント的でも良

いと思う。

萩原委員 「これはこうしなければいけない」というような形ではなく、楽しい形でできると良い。「まちがきれいになるといいよね」に子どもたちも参加できる。企業もメリットを感じて参加するような形に持っていければと思う。

成田委員 子どもを活動に引き出せれば、その親も出てくるということもある。古くからその課題に取り組まれている方にリーダーシップをとっていただいて、広げていけると良いと思う。

仁上委員 リサイクルの話が出たが、ごみの分別もリサイクルにつながっている。ペットボトルはペットボトルで収集されているが、マヨネーズのボトルなどが残されたりする。大人がまず注意する。一人暮らしの高齢者もごみは出す。みんなごみは出す。ごみ集積所がきれいなところはなぜきれいなのか。汚いところはなぜ汚いのか。それを分析していけば、おのずと解決策が見えてくるのではないかと思う。

萩原委員 そういったところは防犯も防災も進んでいると思う。顔が見える関係の中で協力してまちを良くする気持ち、環境が大切だと思う。

仁上委員 子どもの教育につなげることもできる。例えば今のシーズンは地域の盆踊りやお祭りがあるが、その時に出るごみも、何でもかんでも捨ててしまうのではなく、分別してリサイクルする。誰かに任せるのではなく、身近なごみ問題は地域が教育する。ごみという少しイメージが悪いが、面白い取組ができると思う。

萩原委員 中原区にはごみに関連したキャラクターもいるので、そのキャラクターを活動の中で活用するなど、活動がより見えるようになると良いと思う。

仁上委員 なぜリサイクルするのか、リサイクルによってどのような効果があり、資源がどのように再利用されるのか、学校でも教えているかと思うが、各家庭や地域でも教えていく。そういった情報も発信できると良いと思う。繰り返しが重要だと思う。

萩原委員 ごみ収集が週2日になって苦勞されている方も多いと思う。

仁上委員 ごみ収集をしている方に聞けば、どの地区がきれいでやりやすいとか、あそこは汚いから嫌だとか、わかるかもしれない。

事務局（コンカウト） 最近の集合住宅、マンションでは住民専用のごみストックヤードがあって、24時間出せるような形態も増えている。そういった方にはどのような働きかけ、参加していただく方法が考えられるか。

萩原委員 いろいろな主体、例えば町会や商店街、学校など、グループ単位の取組を紹介するようなマップができれば、楽しい形の情報発信になるかもしれない。昔商店街マップを作ったときに、一つ一つのお店に「キラッと光る部分」と「取り組んでいるエコ」について書いていただいて、記載したことがありました。魅力発信にもつながるような形ができるのではないかと思う。

成田委員 身近な商店で、「実は店主がこんな活動をしています」ということがわかれば、新しく来た人も親しみが持てるかもしれない。プラスアルファが何か表現できるようなものは楽しくなりそう。

板倉委員 ごみ問題は子育ての次くらいの課題としては良いと思うが…。

成田委員 子育て世帯では例えば紙おむつごみが大量に出る。高齢者の家庭でも紙おむつ

の利用があったりする。紙おむつごみも外側と中身と本当は分別しなければならないが、なかなかそこまでやっている人は少ないようにも思う。

萩原委員 課題がわかれば、開発する企業も次は分別しやすい商品の開発に励むと思う。

そうした形で全体が良い方向に行けばと思う。

成田委員 例えば一つの家庭でどのくらいのごみが出されているのか、ごみ収集の実態などもわかっていない。何かそのあたりを周知するイベントがあっても良いかと思う。

事務局（コンサルト） ごみ問題は確かに、誰もが関係がある課題である。ただ、既に様々な取組がなされている課題でもあるので、それも踏まえた上で審議を進めていく必要がある。

板倉委員 川崎市ではごみ減量指導員を地域レベルで育成している。また、分別については川崎市では焼却施設が揃っていて、そこまで細かく分別しなくても燃やしてしまうという実態もある。ペットボトルにしても、外側のラベルを剥がしてという指導がされているが、川崎市の施設ではそのまま一緒に砕いた後で、比重で自動的に仕分けしてしまう設備を持っている。また焼却炉も、非常に高温で処理できるので、かなりの部分が燃やせる。

仁上委員 ごみ集積所の問題などは、現実としてある。そのあたりを課題と捉え、発信していく必要があると思う。他の地域や都市では、もっと細かい分別のルールを設けている地域もある。燃やせるからいいのだという考え方もあるが、そればかりではないと思う。テーマとして、取り上げて良いのではないかと思う。

板倉委員 中原区内でも新丸子3丁目では、ごみ集積所を無くしてしまったという事例がある。なぜかという、「汚い」「邪魔だ」と新しい住民の方からクレームがあったから。そのことから10軒ほどの集積所だったが、戸別に収集するようになった。

萩原委員 マンションの方々が地域のごみ集積場は美観を損ねるとか、資産価値が下がるというようなクレームをつけるという話は聞いたことがある。

仁上委員 そうした話はいろいろ出てくるかと思う。極論を言えば、全て戸別収集すれば良いのかもしれない。私が最も問題に思うのは「なぜ、汚いごみ集積所があるのか」ということ。いつ行っても汚いところがあって監視していたいと思うほど。知らないでやっているのか、知っていてやっているのかも疑問だが、知らない人が意外に多いようにも想像している。

事務局（コンサルト） あと10分ほどで、審議テーマの絞り込みをお願いしたい。

事務局 ごみ排出マナーの話が出ましたが、ごみに関する事業は区役所ではなく、環境局の生活環境事業所の管轄になり、区役所としてできることに限界がある。収集事業等と切り離して啓発面などで取組を区役所で進める分には問題がないかと思う。ただ、実態として区役所に対応する組織がないということは御理解いただきたい。

仁上委員 例えば啓発を考えた場合、町会などがそのターゲットになるかと思うが、町会に働きかけることは区でもできると思う。汚いところに働きかけるだけでなく、きれいなところを表彰し、広報するようなこともすれば良い影響があると思う。

萩原委員 高津区では区役所でたい肥化した生ごみを集めて、個人と農家をつないだり、廃油も区役所で集めたから、たくさんの方が参加するようになったというような話

を聞いたことがあるが。

事務局 区の事業で、ごみというよりもエコの視点で、環境施策として取り組まれているのではないかと思う。環境施策であれば、独自事業として展開する道もある。

中原区では全国の美化運動の週間や月間に合わせて、町内会に区役所から働きかけ、生活環境事務所にも参加・協力いただいて、美化活動を展開したり、特別な収集を行っている。また美化活動の進んでいる町内会を推薦して表彰したりといったことも行っている。

板倉委員 廃油も中原区では月1回収しているが、ただ、この情報があまり知られていないということはあるかもしれない。

萩原委員 いつからされているのか。

板倉委員 まだ1年ほどしかたっていなかったと思う。わりと最近の活動。

萩原委員 知らなかった。

事務局 (コンサルト) ごみ問題も良いし、区民会議での取り上げ方や取組についても工夫できると思うが、気になるのは、本日の運営部会に参加されていない委員さんへの説明。運営部会に本日参加されている委員は7人で、それ以外の委員が13人いらっしゃる。ごみ問題はこれまでの議論の中で意見が多かったテーマではないので、経緯や選出理由をきちんと説明する必要がある。また、既存の取組が多いテーマでもあるので、それらをきちんと踏まえることも重要。

ごみ問題をメインに据えるとして、他の分野やテーマとの連携、参加の方法も検討しておきたい。例えば外国人の方々のごみ分別などは理解・実践されているのか。

中森委員 理解されていない方も多いのではないかと思う。

事務局 (コンサルト) もしそうなら、そのあたりも取り組むべき課題となるかもしれない。また、一言にごみ問題と言っても、今日の議論の中でも、ごみ排出マナーの問題、リサイクルの問題、地域美化の問題などが挙げられており、少しずつ観点が異なる。どのあたりをメインにしていくのかももう少し検討の必要があるかと思う。多分野との連携では、例えば中高生の分別教育や、新旧住民一緒の取組などが考えられるか。そのあたりのターゲットも絞り込めると良いかと思う。

中森委員 ごみ問題といっても、エコ的な捉え方が良いと思う。ごみというと、言葉のイメージもマイナスなので。

事務局 (コンサルト) 例えば「みんなでまちをきれいにしていこう」というようなイメージが良いか。

中森委員 はい。

成田委員 中原区では年1回、とどろきアリーナで「国際環境技術展」が開催されている。

すごく良いイベントだと思う。そこで油の回収をしているということを知っていて、初めて行った。

萩原委員 あの時に、中原区の展示が少しさびしいな、恥ずかしいなと、他の展示と比べて思ってしまった。

「ごみ問題」よりも「エコでまちづくり」というようなテーマが良いと思う。「みんなで」というコンセプトも入れたい。きれいになることを否定する方はいないと

思う。

事務局（コンサルタント） 具体的な提案の検討や既存の取組の確認などは、今後、進めていければ良いと思うのですが、できれば本日、審議テーマのタイトル、内容やコンセプトを簡潔に表す言葉を決定できればと思う。皆さん、まずごみ問題やエコをテーマの中心に据えるということはよろしいか。

事務局 参考資料3-3を見ていただければと思うが、第1期の中原区区民会議で環境、エコに取り組んだことがありました。区役所でのPETキャップ収集などの取組につながりましたが、その後市の方針や収集に関する法令上の問題などから現在では行われていないということがあります。

また、現在、区役所の中で環境という視点で取り組んでいる事業はというと、地球温暖化やヒートアイランド対策などの事業がある。そのあたりも踏まえていただければと思う。

萩原委員 区役所のこれまでの事業と同じ流れや、管轄部署などに合わせていこうとすると、残念な結果になってしまうように感じる。むしろそれらを超えて、新しくみんなできりくもうというような動きを作りたい。縦割り組織の壁を取り払う動き。エコロジーちゃんがまた出てくるような形ではつまらないと思う。

事務局 本日は課題とテーマを決めるということで、具体的な解決策や取組は今後の課題調査部会での検討をされることになる。

事務局（コンサルタント） 「みんなで」というのは、ひとつ、キーワードになる。過去の区民会議のテーマ設定例も参考にすると、例えば「地域で支える高齢社会」「安全・安心のきずなづくりにむけて」などの例がある。排出マナーや美化に関する問題はクリーンという言葉、リサイクルやごみ減量の問題はエコという言葉でも表現できそうである。

中森委員 「地域コミュニティ」という言葉と「みんなで」という言葉を合わせられないか。「地域コミュニティ」はこれまでの会議でも皆さん発言の多かったテーマなので、それを外さない方が良いと思うし、みなさんも納得しやすいと思う。

萩原委員 「地域コミュニティでまちをきれいに」

仁上委員 大きなテーマとしては「地域コミュニティ」だが、その中でごみ排出やエコなどの問題に中心的に取り組んでいくということかと思う。

成田委員 「地域コミュニティ」は確かに外せないと思う。

事務局（コンサルタント） そうすると、「地域コミュニティ、みんなでまちをきれいに」というようなテーマ設定になるか。中心課題はエコやクリーンに関わる課題。仮題ということかどうか。

（意見一致）

事務局（コンサルタント） 既存の取組も踏まえながら進める。また、サブ課題としては、新旧住民交流、世代間交流なども意識する。子育てや外国人、商店街も取組の上で絡めていく方向もあるかと思う。また中原区の特徴として人口増が挙げられたが、人が増えるということはごみが増えるということでもあるから、このあたりも打ち出せる。みんなが参加しやすい取組を考えるということも重視し、伝えたいところ

である。

萩原委員 みんなで楽しくというところも伝えたいところだ。

中森委員 短期間ではなく、一年通してや継続してということも大切だと思う。

板倉委員 第4期の中で「子育てふれあいカフェ」という取組を初めて行い、100人ほど集まったという成果があった。これにぜひもう一回挑戦してみたいという思いがある。テーマは2つに加えて、2.5くらいにして、その中で取り組めないか。

萩原委員 エコの活動の中に「子育てふれあいカフェ」を絡めていくことも可能だと思う。

反町委員 カフェ開催のノウハウはある程度あるので、十分可能だと思う。そもそも1回で終わるのではなく、続けていきたいという取組だったと思う。取組の特徴としては、健診に合わせて開催したことで、PRに手をかけなくてもある程度の参加者が集まったということがあった。既存のノウハウをベースに区民会議として伝えたいことをアピールしていく場としても捉えていき、その内容をイベント中にいれていけると一番良いと思う。

萩原委員 学校なども絡められると良い。以前防災を取り組んだ時に、子どもたちが肝心だからと、学校さんにもフォーラムに出ていただいたことがあった。子どもたちの発表の場を設けるなども楽しいかなと思う。そこにカフェがあっても良い。

中森委員 外国人のごみ排出に関しては、国際交流センターで翻訳資料をつくっている。

○一同、「地域コミュニティでまちをきれいに」をテーマ案とすることで合意した。

○議論のまとめ、全体会への説明資料や説明方法については、事務局と委員長・副委員長で今後詰めていくこととした。

○テーマ数についても、当面は2つを想定して進めていくこととした。

6 第2回区民会議について

資料3「第2回区民会議次第案」に基づき、10月に予定されている第2回区民会議の議題、進め方等について確認した。

7 閉会

小野副区長 中原区選挙管理委員会が同じ時間帯にあったため、冒頭から出席できず、大変失礼いたしました。本日は皆様から闊達、積極的な御意見をいただきました。審議テーマを決めるというのは簡単そうですが、実は非常に難しい作業だと思う。おかげさまでまず一つのテーマの方向性が見えてきたと思う。第2回の会議につなげることができます。まだまだ暑い日が続きますが、みなさん健康には充分御注意いただき、今後も御協力いただければと思う。どうかよろしくお願いいたします。

以上